

後期研修を終えて

救命救急センター医師      日宇宏之   平成16年   琉球大学卒

私は新臨床研修制度の1期生で、当院で初期研修終了後救命救急センターレジデントとして研修を継続しました。救命救急を選択した理由は、重症の患者さんが話せるようになり、食事が出来るようになり、そして歩けるようになっていくことが嬉しかったと記憶しています。特に重症になればなるほど、多くのスタッフの協力が必要でその環境・雰囲気は体育会系の部活のようで楽しく、数年経った今もそれは変わっていません。

当院で研修することを決めたのは、スタッフが少数でがつつり経験出来る点とドクターヘリを導入することが決定していた点です。当時はスタッフ3名レジデント3名が救命の人員でした。レジデントは3日に1日拘束というもとにほぼ泊まりのような日々が続くこともよくありました。拘束以外も重症がくればレジデントはワイワイ言いながら診療にあたっていました。病院にいる時間はかなり多く、QOLに関しては決して良いとは言えませんが、各科の先生方や救命センターのスタッフのご指導のもと貴重な経験をさせて頂きました。はっきり言って医師としてQOLを求めるのなら、当院および当救命救急センターでの後期研修はお勧めいたしません。しかし修行とまでは言いませんが充実した研修を求める方は『是非とも一緒に勉強しましょう。』と思っています。

長崎医療センターで2年間の後期研修終了後は、大阪の済生会千里病院千里救命救急センターへ後期研修医として勉強しに行きました。そこで完結型救命救急センター、都市型救命救急を3年間勉強してきたのですが、非常に素晴らしい経験であったと思います。数多くの様々な疾患を多くのスタッフ(救急部所属医師30名以上で夜間帯でも8名以上勤務)で対応する救命救急でした。「この症例にここまで医療財源を投入するのか？」と疑問に思うこともありましたが、10人に1人でも歩いて帰る人がいればやる意味があるというスタイルで、救命出来た際の充実感はありました(そうでないことも多々ありましたが・・・)。

そういった経験を経て長崎医療センターで再び救急医療を担うスタッフとして働くことが出来ることは、大変喜ばしいことです。また、出戻りを国内留学という言葉を使って受け入れて頂くような温かい土壌が当院にあることも大変感謝しています。

今後も、多くの患者様の健康に貢献することを目標にし、これからも日々研鑽していきたいと思っています。